



## 「へ～ そーなんだ」

### 知ることは楽しい！ 学びの秋

9月は各講座でたくさんの「知らなかったわ～」の感想を寄せていただきました。「ちょっと難しい…」と合わせ、興味深く聞いていただいている様子が伝わります。少し秋らしい気候になってきました。充実した講座で楽しく学んでいただけるよう努力します。



#### 12月予定の繫昌亭ツアーの参加者募集を開始します。

- 締め切りは10月末です。
- 寄席芸鑑賞講座受講生が優先です。定員に余裕がある場合のみ他講座の方の参加を抽選で決定します。
- 詳細は配布の募集案内でご確認ください。

#### 9月ひとこと感想より

#### 講義中のスマホは マナーモードまたは電源オフに！

時々講義中に「ピロピロ～」。講座の始まり時に注意事項としてお願いしていますが、言い忘れることもあります。ご協力をよろしくお願いします。



#### すご技講座の日程

が大幅に変更になっています。ご注意ください。

#### ★10/25→11/8に変更

長田野工業団地・GSユアサ

#### ★11/22→12/6に変更

長田野工業団地・神戸製鋼

#### ★12/13(予定通り)

「日本茶を味わう」

会場・ハピネスふくちやま

(福知山市役所隣接)

#### ★2024/3/6(7月から延期したもの) 日東精工

集合場所等は別途連絡します。他講座からの振り替え受講などを希望される場合はお問い合わせください。

## 9月の各講座の概要と、ひとこと感想から

(感想は一部を抜粋したのもあります。ご了承ください)

安全保障は本当に難しい。先生の話聞いても謎は深まるばかりです。しかし、為政者は正しい道を選ばなくてはなりません。岸田さんで大丈夫だろうか。

人類はなぜ戦争をするのだろうか。誰も家族や友人、自分自身が戦争で殺されたくないだろうに。国家は戦争をするためにあるのだろうか。

#### ◆時事問題講座 9月5日

#### 「安全保障を原論から考える」 講師:松竹伸幸氏

紀元前から人類は戦争をしており同盟も存在した。第一次大戦後、相手を屈服させやりたい放題だった反省から国際連盟ができ不戦条約も結ばれたが機能せず結果日独伊の大侵略戦争から第二次世界大戦を起こし結局約5000万人の犠牲者を出した。イデオロギーの違いから冷戦が続き崩壊した事安全保障の概念として核抑止力が生まれた事、戦後外国軍が平時も駐留するという現象も起きた。日本は日米安保条約で米軍の駐留が続いている。問題点としては米国の戦争に一切反対しない事があげられる。このウクライナ戦争についてはロシア、ウクライナの両方にとって手を引ける大義が必要で、有ればすぐにも終わるだろう。戦争軍事論を専門家に任せず考えてみよう。





◆寄席芸鑑賞講座 9月14日  
「浪曲を学び楽しむ」  
講師：真山隼人氏 三味線・沢村さくら氏

講談と落語の違いや浪曲に必要な五点セットなどの紹介から始まり、浪曲には必ず三味線が必要で、阿吽の呼吸で浪曲師と三味線奏者がその場で合わせる素晴らしい日本芸能であることを教えて頂きました。講師は真山隼人さんと三味線奏者沢村さくらさん。浪曲は大正、昭和時代で大ブレイクし、浪花節とも呼ばれていましたが沢山の浪曲師の数は今では83人になったそうです。

独り立ちの際には、一人一芸と師匠とは別のことをしなければならぬそうで、師匠の真似から自分ご自身の浪曲の個性の構築を経て浪曲師真山さんの今の浪曲があります。(節、地節、きざみ、たんか等)

即興で大阪から福知山まで来られた道のりを物語にして浪曲を披露して下さいました。後半は落語の桂文枝師匠の創作落語、「鯛」の話を浪曲にして披露されました。浪曲がこれほど聞きやすく、面白いもなんだと感動し再確認しました。

浪曲を聴く機会もなければ、講談さえも(ブームらしいが…)しっかり聴くことのない私でも、違いが良くわかりました。真山さん、お若いのに、大変良く通る声に、修行をされたんだなあと思いました。

浪曲は祖父と良くラジオで聞き、懐かしく嬉しかったです。笑える浪曲もあるんですね。

落語から浪曲を演じられる大変珍しい話をして頂き大変楽しませてもらいました。

浪曲の歴史を色々聞き奥が深いと改めて感じました。三味線もとても上手で、場面場面でタイミング良くあいの手と共に素晴らしいものでした。

◆写真講座 9月19日  
「街の風景」 講師：四方智基氏



新町商店街の吹風舎で開催した第5回講座は、まず7月の「子どもの笑顔」写真の披露から。自由に動く子どもたちにピントを合わせる苦労が見えます。しかしながら、ただ「楽しい」「うれしい」子どもの気持ちがよく伝わる写真、絵本を読んでもらう子どもの真剣なまなざしなど、印象に残りました。

さて、当日の撮影テーマは街中の風景、やや曇り気味とはいえまだまだ残暑厳しい中での街歩き。商店街の中の時計屋さんで、アンティークな柱時計も撮影させていただきました。吹風舎のごく周辺をぐるりと一回りしながら、モノクロ写真にも挑戦。面白そうな路地を発見したり、古い看板に見入ったりと、アツという間の撮影タイムでした。



いつも丁寧な資料をありがとうございます。レンズを通して見る景色が楽しいです。

街中の普段目にとまっていなかった看板やたずまい、人々の暮らしを見つめることができました。写真を撮る行為だけに終わらず、物の見方、光と影を見る良さを学ばせていただきました。

## ◆歴史講座 9月20日

### 歴史学とアーカイブズ学

ー 現代日本の記録保存と歴史学 ー 講師：井口和起氏

「アーカイブズ学」？そもそもアーカイブズってなんだ？用語の定義や制度についてびっしり記載されている配布資料を見て、今日の講義は難しそうだと思われた受講者もあったかもしれません。

しかし、講義が始まればいつもの軽妙な語り口、難しい内容をかみ砕いての説明で徐々に引き込まれて行きます。プロジェクトには府立京都学・歴彩館(旧資料館)の資料保存の様子など、普段目にする事の出来ない映像がたくさん映し出され、みなさん大変興味深く見ておられました。

アーカイブズの説明には「組織または個人が…(略)…作成、受領し…(略)…資料保管組織に移管される資料の総体」とたくさんの文字が必要なのでここでは省略しますが、国立公文書館には紙やデジタルデータはもちろんのこと、ぬいぐるみや和菓子の木型までが対象資料として保存されているとは驚きです。その資料を整理保存するにあたっての基本原則の話、1987年に制定された公文書館法の話、学習院大学大学院に設置されているアーカイブズ学専攻修士課程の話と続き、資料保存の現状だけでなく、整理保存にあたる専門職の育成など、将来に向けて課題もあるとの話。

資料館などで誰もが閲覧できる資料、その背景には専門的な知識と技術に支えられた緻密な作業が伴っているということを知ることができました。



大江町河守、関の宮川の図面が出てきたのにはビックリです。大江町誌にもなかったように思います。来年度はぜひ、「広峰古道」の話を知りたいです。

アーカイブスについて詳しくお話頂きありがとうございました。次回は各国、特に東アジアの国の歴史教育の概要について教えてください。

「ヒマラヤと日本の山」というタイトルにひかれ、何の話や？と興味津々で聞きました。時空を超えて、でも同じ地球で起きていること、改めて私たちは「地球に生活している」と自覚しないと、と思います。国境や国益民族ではなく、地球人として互いに尊重しあって生きていかなくては、と思いました。

## ◆自然科学講座 9月21日

### 「ヒマラヤと日本の地質」

講師：小滝篤夫氏

今回の講座は世界最大の山脈のお話でした。この山脈は今も動き続けているそうです。動くというより、インド大陸に押されて主にアジア東部に圧力がかかっているということです。何年か前に中国四川大地震があったのも納得できます。

ヒマラヤは、もとは海の底だったということが化石の採集などから分かっています。しかし、8,000メートル級クラスの山脈がプレートの衝突によって隆起しているということは、他のどこかで引っ張られている場所もあるのではないかと想像してしまいました。このヒマラヤという大山脈の形成によって、日本にも気候ひいては文化にも大きな影響を与えています。日本には梅雨があるのも、インド洋からの雲がヒマラヤという壁にあたり、前線を形成し東へ移動し梅雨になるということです。半面、山脈の北側の海のないチベット高原は乾燥化しています。梅雨のある東アジア地域(日本、台湾、中国南部、ベトナム北部、ラオス北部など)は、食文化では発酵物づくりの形成に大きな影響を与えています。

日本列島の成立について高校地学のテレビ番組では、大陸から剥がされるようにして、その後地殻変動などを経て日本列島は成立した、と説明されていました。しかし、何故大陸から分離したのかは本日の講義で初めて知るところとなりました。当時、大陸のその個所は火山活動が活発であったためとの説明で判りました。しかも列島形成の過程は岩石の磁気の分析から解明されてきていることもわかり、「ナゾ」が解けて有意義でした。



へえ〜という話しが聞けてよかったです。(歴史、植えつけ方、京の伝統野菜と京のブランド産品との違いなど) 品種(京の伝統野菜、ブランド産品の元の品種) 京都で作られたのではない!?



とても面白く参考になることが多かった。里芋とえび芋が同一品種なんて知りませんでした。目からウロコでした。

それぞれの京野菜の特徴と植物の茎なのか根なのか、どの向きに豆をまくのか、日の長さで花が咲くなど初めて知りました。楽しかった。

◆**すご技講座 9月27日**

**「京の伝統野菜を知ろう」**

講師: 京都府中丹西農業改良普及センター 曾根秀樹氏

9月のすご技講座は第1次産業の農業、それも「京野菜」をフォーカスして「京の伝統野菜を知ろう」をテーマに開催しました。最初に講師の曾根さんから「京の伝統野菜」と「京のブランド産品」の区分について説明がありました。

伝統野菜とは(1) 明治以前に導入されたもの(2) 京都市内だけでなく府内全域で栽培(3) タケノコを含み、キノコ、シダは除くなど。ブランド産品は(1) イメージが京都らしい(2) 適正量の確保(3) 品質・規格の統一(4) 他産地に対する優位性・独自性の要素で伝統野菜との重複もあり、図表で知りました。ちなみに万願寺は大正期以降に栽培されたもので「京の伝統野菜」でないことも知りました。

京野菜の中で(1) えびいも(2) 堀川ごぼう(3) 黒大豆枝豆について、栽培のすご技の話がありました。えびいもは里芋(唐のいも)と同一種で植え付けは溝の底に植え土寄せをして栽培すること。エビのような形に土寄せをすることがすご技なんです。堀川ごぼうは伏見桃山時代にゴミ捨て場であった堀川で偶然発見されたもの。堀川ごぼうは種でなく「たきのかわ」という宮崎産のごぼう苗を5月に斜め15度に傾けて植える。黒大豆枝豆(紫ずきん)は新丹波黒(品種)の早生、極早生を含め9月~10月まで収穫したもので、11月になると黒大豆となることなど、栽培のすご技を知ることが出来ました。



文字の成り立ちに、色々な物語があり、とても興味深いと嬉しくなりました。

この部首は、この形から出来たとか、漢字のこの部分は何を表す(例えば手の形のバリエーションなど)と言うようなまとめ的な学習があれば嬉しいです。

◆**漢字学講座 9月28日**

**「男」は田んぼで力出す? 講師: 久保裕之氏**

まず「田」の文字は、日本では田んぼを意味するが、古代農耕が始まる前からあった文字なので、元々は、区画された土地を意味する文字であった。

「界」は、田の下に人が鎧を付けている様の象形文字、隔てられている土地を意味する。

「画」は、手に筆を持っている様。下の部分は、コンパスの象形文字。何と! 甲骨文字の時代から、円を書く為の、コンパスを使用していたなんて、驚き!

「力」は、人の筋肉の形と解釈されていたが、後に農機具の鋤の形を表しているのではないかと言う事で、農作業を司る人の事を「男」。ちなみに、「女」は、跪く女の人の象形文字。

「父」は、右手で棒を持っている人を表している。なので、権力者。家庭での権力者が「父」……(へえ〜、そうなんですね。)

禾偏は、穀物が実っている様。秀の「乃」の部分は、稲の花が咲いている様。なので、「秀」は、素晴らしいという意味。一方「秃」は、穀物が枯れる様。……今では、穀物ではない物が枯れている様を表しているように思うのですが、どうでしょうかね……?